

事業名		令和2年度 第1回 市川市文化芸術事業検討懇話会	
日時	令和2年7月9日(木)14:00~15:15	出席者	【委員】 駒見和夫氏、涌井洋治氏、湯山英清氏 能村研三氏 小坂裕子氏
場所	文化会館 第3会議室		【事務局】 松尾文化スポーツ部長 小川文化スポーツ次長
種別	<input type="checkbox"/> 交渉 <input type="checkbox"/> 連絡 <input type="checkbox"/> 提案 <input checked="" type="checkbox"/> その他		菊池文化芸術課長、白井主幹 佐藤主任
【内容】			
市川市芸術祭・文化祭事業の見直しについて			
1. 新規行事「Ichikawaカルチャー&アーツフェス（仮称）」について			
2. 新規行事「Ichikawaカルチャー&アーツフェス」の参加資格及び実施資格について			
3. その他			
【議事】			
1. 新規行事「Ichikawaカルチャー&アーツフェス（仮称）」について （事務局から説明）			
<p>「市川市芸術祭・文化祭」は市内文化団体の発表の場を設けるため、市民への参加を呼びかけ、団体の育成と文化芸術活動の活性化を図ることを目的に、各文化団体と市川市との共催により27行事を開催している。市の支援としては、共催負担金の支出や会場の確保などを行っており、団体の役割としては行事の運営や実施報告がある。</p> <p>課題としては、新規団体の参入がなく、既存団体が市から受けている支援が既得権化し、他の文化団体と不均衡が生じていること挙げられる。</p> <p>市川市文化芸術事業検討懇話会における前回までの意見を要約すると、</p> <p>①既存団体への市の支援に対する既得権化 ②行事の集約化の必要性 ③新規団体参入の推進 ④SNSを使用した広報活動の推進</p> <p>などが挙げられる。以上の課題を解決するため、現行の市川市芸術祭・文化祭に替わる行事として、市内文化団体より公募形式で参加団体を募る新規行事、「Ichikawa カルチャー&アーツフェス」を開催する。内容としては、市川市と市川市文化振興財団との両主催事業として、「市川市芸術祭・文化祭」の既存団体をはじめ、市内の文化団体より幅広く公募していく。実施時期は市が指定した一定の期間、例えば春と秋に各行事を集約化した形で開催を予定している。会場は市川市文化会館、八幡市民会館等のホール・展示室を有する市内文化施設とし、展示発表やステージ発表、ワークショップなどを同じ会場で行うことで、訪れた市民が、一度に多くの文化に触れあうことの出来る場を創出していきたい。共催負担金に関しては、「事業対象経費の2分の1、30万円を上限とする」などの制限を設け、各参加団体へ交付する予定。広報方法についても、現行行事では使用していなかった「デジタルサイネージ」や「市公式フェイスブック・ツイッター」といった新しいコンテンツを用いて、若い世代の参加を促すよう働きかけていく。</p> <p>このような新規行事の考え方について、アイデアや参考となる事例等、ご意見をお聞かせいただきたい。</p>			

(意見交換)

○委員

新規団体を参入させることは良い事だが、今まで市に貢献してきた実績のある団体を切り離すことが出来るのか。一方で、市内で同じような活動をしている2つの団体があり、そのうちの1団体のみが市からの支援を受けている現状は課題としてある。

○委員

新規団体を積極的に取り込んでいく予定ならば、参加資格は厳しくしてはよくない。新陳代謝を図るならば思い切ってハードルを下げる必要がある。

○委員

基本構想は非常に良い。公募形式なので公平性を出すことができるが、既存団体も参加できるような枠組みが必要。

○委員

各団体への交付金など、予算や事業規模から行事内容を決めていく必要がある。新規行事に取り組んでいくという事で期待度は高いものがあるが、既存団体の方々にも納得いただける形が必要。

○委員

国分川の鯉のぼりフェスティバルや、行徳の中台神輿など、色々な文化が市川にはある。広い観点をもって市川の文化を広げていければ良い。

○委員

例えばさくら草の展示会や珠算大会といった分野は「文化」とするのか、「市民まつり」など市のほかの事業があるなかで枠組みを決めていく必要がある。

○委員

昔は市の主催で「回遊展」を開催していたが現在は行われていない。現在地域で活動している方の掘り起こしができれば良い。

○委員

市民に発信する文化団体という観点で考えた際、個人的な集まりではなく、色々な考え方を取り入れることの出来る団体が望ましい。例えば茶道だと流派にこだわらず門戸を開いているような形が良い。

2. 新規行事「Ichikawaカルチャー&アーツフェス」の参加資格及び実施資格について (事務局 から説明)

新規行事となる「Ichikawa カルチャー&アーツフェス」は公募により参加団体を募るため、団体の参加資格および行事内容の実施資格が必要となる。それぞれの案を作成した。

参加資格については、

1. 活動の中心を市内とし、会員の過半数以上が市内在住又は在勤の方で構成されている団体であること
2. 会則・規則等を有すること
3. 過去3年間に、市川市もしくは市川市教育委員会の後援・共催を受けた行事を開催していること
4. 事業遂行能力が十分であると判断される団体であること
5. 本市から運営等に係る経費の助成を受けている団体ではないこと

以上5点となっている。

活動の中心を市内とする文化団体を想定し、個人での参加は不可とした。また、市や教育委員会の後援実績があり、行事開催にあたり事業遂行能力がある団体を対象としている。

実施資格については、

1. 市の施策の推進に寄与すると認められる事業であること
2. 広く市民を対象とした事業であり、市民の幅広い参加もしくは集客が期待できる事業であること
3. 行事の経費積算は社会通念上妥当であるもの
4. 入場料その他これに類するものを徴収しないこと。ただし、当該事業の運営に係る経費のみに充てるもので、特に必要と認められるものは除く
5. 市の補助金額に見合う効果が十分に期待できるものであること
6. 行事内容が趣味・サークル活動等の発表にとどまらず、公共的な利益を目的としていること
7. 市民が参加可能な枠組みを設けること
8. 公衆衛生、安全対策等について必要かつ十分な設置及び措置が講じられていること

以上8点となっている。

行事内容が広く市民を対象とした公共性の高い事業を募集するため、過去の実績から判断し、趣味・サークル活動の発表にあたるような小規模な行事は不可とした。また、市民が参加可能な枠組みを設ける事を条件としている。

多くの市民の方に鑑賞の機会を創出するため、集客が期待できる行事であること以外にも、原則として入場無料の行事を対象とした。入場料がかかる場合においても、当該事業の運営の経費にのみ充てられるかどうかの確認を行うものとする。

このような参加資格及び実施資格において、どのような基準で判断していけば、より公平・客観的な行事とすることが出来るか、ご意見をお聞かせいただきたい。

(意見交換)

○委員

新規行事の行事名は若者向けとはなっているが、この募集要項では入れない団体が多いのではないか。また、大学のサークル活動や高等学校の取り組みのようなものでも地域に根差した活動をしている団体であれば入れてもいいのではないか。

○委員

市や教育委員会の後援実績が必要という部分はハードルが高いので外したほうが良い。また、既存団体の中には行事の入場料を取っている団体もあるので、この部分についても外したほうが良い。入場料を取る場合でも「当該事業の運営に係る経費に充てる場合は可」とあるが、これを立証することは難しいので記載しないほうが良い。

多くの団体に参加してもらうためには、市民参加が前提という事にしてしまうと難しい。また、行事の質を上げるためにも実施資格には適さないのではないか。

○委員

集約化を進めることは良い事であるが、既存団体はすべて新規行事に取り込むことは出来るのか。特定の団体を例外とするのは良くない。

既存行事の洗い出しを行い、既存団体が参加可能な枠組みでなおかつ新規の団体が参入することが出来る行事にする必要がある。

○委員

既存団体は今までの市への貢献度も高いことから、行事内容を考えるうえで一定の配慮をする必要があるのではないか。

○委員

文化イヤーのようにコンサートや展示などまとまったイベントを行うと集客はある。幅広い年齢層を対象に出来るとよい。

○委員

参加資格・実施資格を分ける事は良いと思うが、それぞれがすべて満たす必要がある形ではなく、例えば「参加資格のうち3点以上満たしていれば可」といった形にしたほうが良い。

(事務局からその他事項について)

本日のご意見を参考に、事務局で引き続き検討していく。

次回については秋から冬頃の開催を考えているため、また委員の皆様の日程を調整させていただきたい。